

スタートした
情報処理機械化

全国初の
オンライン



全地方合同庁舎と本庁には、演算付きさん孔タイプライターとテープ通信装置が設置され会計や災害の状況など百二十三項目の情報に岩手電子計算センター（盛岡市内丸）に送信される。

通信回線



実施方針が決定したのは、昨年の四月。それから一年間での準備はきびしい条件。専門的な知識も必要として、準備は苦闘の連続であった。

四月一日、情報処理の機械化がいよいよ本番に入った。広大な面積をもち、情報処理に難しい条件といえる本県。しかし、大規模構想の実現に、また年々増大する行政需要もあいまって、行政情報のじん速適確なそして安価な把あくが強く望まれるところである。このような期待をになって登場したのが、この機械化である。

この構想が正式に決定したのが昨年の四月。普通、二年間かかるという準備が、調査などもあったことから、実際、半年間でなされた。

現代文明の先端をゆくコンピュータの駆使。本県が全国に先がけて、初めてとり入れたオンラインシステム（各地の合同庁舎と本庁をコンピュータに通信回線で結び、情報を即時に処理する方式）など。専門的知識も必要とし、担当者たちは関係する本は全部読んだというようにいわば無からのスタートは、なみたいいの苦労ではなかった。現在、このシステムで処理されているのは、財務会計など七種別百二十三項目。ゆくゆくは他の分野も適用し、より効率的な運用が期待される。



磁気テープ装置

通信制御装置

中央処理装置

送信された情報は、まず通信制御装置に入り業務別・機関別に整理される。ついで中央処理装置に入り、比較・判断・計算などの処理がなされる。その結果が磁気テープ装置に入り記録される。

月計的なもの

日計的なもの



テープ通信装置

演算機付きさん孔タイプライター

処理された日計的情報は、本庁には全部、各合庁には関係分が、ただちに返信される。また、必要な時は、ある地区から一地区または全地区への送信ができ、緊急の時などは、特に偉力が発揮されることであろう。

高速製装印字装置

処理された月計的情報は、高速製装印字装置で印刷される。

出力情報